

# 内部質保証システムの構築における短大生調査の活用可能性の検証

発表者

山崎 慎一  
(桜美林大学)

堺 完  
(日本私立学校振興・共済事業団)

黄海玉  
(短期大学基準協会)

高等教育質保証学会  
第6回大会  
開催地：東洋大学

## 内部質保証の更なる推進に向けて 短大生調査の活用可能性

認証評価制度は、平成三〇年度から第三サイクルを迎えるに当たり、内部質保証の有効性の検証、インプット・プロセス・アウトカムのバランスが取れた評価の推進等が制度改革の方向性として示されている。平成二十七年二月に開催された日本高等教育評価機構創立十周年記念シンポジウム「認証評価の課題と展望」第三サイクルに向けて一では、平成三〇年から開始予定の第三サイクルの展望として、内部質保証の有効性の検証、インプット・プロセス・アウトカムのバランスが取れた評価、高等教育機関の多様性への配慮等が今後の方向性として提案されている。今後の認証評価において、内部質保証の推進と大学教育の可視化は今後さらに重要になることが予測される。

平成二十六年に中央教育審議会の短期大学ワーキンググループから「短期大学の今後の在り方について」が公開され、日本の高等教育における短期大学の役割と可能性について提示されたものの、明確に日本の高等教育政策の中に位置づけられているように見えない状況にある。

実際に短期大学数は年々減少し、今後の見通しも厳しい状況である。しかし、その一方で地域における役割は非常に大きく、著しい人材難が指摘されている幼稚園や保育園、福祉職で働く人材を多く輩出するなど、その存在意義は決して小さいものではない。また、近年は経済的な事情によって、高等教育へのアクセス環境も悪化しており、短期大学は高等教育へのアクセスポイントの確保する役割も担っている。短期大学の持つ特色を活かした評価活動を通じ、内部質保証を支えるとともに、その社会的意義と重要性を明示し続けなければならない。

自己点検・評価の資料となつて認証評価への対応に役立つだけでなく、自校の強みや弱みを把握してのマーケティングへの利用などを可能にするものである。

### 短大の実情をふまえた独自の分野別（学科別）分類表

系コード(大分類)	学科・専攻数	細目CODE1: (カッコ内は学科・専攻数内訳)	細目CODE2: (カッコ内は学科・専攻数内訳)	細目CODE3: (カッコ内は学科・専攻数内訳)	細目CODE9(その他): (カッコ内は学科・専攻数内訳)
1: 教育系	292	幼児・保育(274)	—	—	初中等教育、体育、養護等(18)
2: 教養・総合系	141	教養・総合・キャリア・文化(79)	国語・国文・日本語(17)	外国語・コミュニケーション(45)	—
3: 健康系	287	看護(28)	福祉・リハビリ(98)	食物栄養(105)	検査技師、歯科衛生等(56)
4: 家政系	70	家政・生活(47)	被服・服飾(21)	—	デザイン等(2)
5: 芸術系	54	芸術・美術(27)	音楽(23)	—	演劇等(4)
6: ビジネス系	71	ビジネス(22)	情報(13)	経済(28)	秘書、法学等(8)
7: 理工系	36	工学(22)	—	—	農業、環境等(14)
8: その他	10	その他(10)	—	—	—

### 短大生調査の活用可能性

短大生調査は一般財団法人短期大学基準協会調査研究委員会が、「短期大学における主体的改善」改善に資する自己評価方法に関する調査研究」の課題のもと、「短期大学における学習効果測定法の開発」として実施するものである。科学的な研究の蓄積に基づく質問項目によって、精度の高い自己評価資料が得られることから、参加短期大学にとって、

分業別集計は、「全国短期大学・高等専門学校一覽」をもとに、大学ポータルサイト等のインターネット上の情報を合わせ、短大生調査のために独自に開発したものである。これまでは調査参加短大全体のデータとの比較しかできなかったが、分業別集計によって各短大内の実情、分野ごとの特徴を反映した比較が可能になった。二〇一六年度以降の短大生調査では、正式に分業別集計が実装される予定である。

図1【A短大(教育系学科)、教育系学科全体、短大生調査全体の学修経験】を示したものである。教育系学科全体と短大生調査全体の結果を比較すると、「キャリアに関する教育」はやや経験されている傾向にあるが、「宿題や課題」に関する教育は、やや経験されていない傾向にある。しかしながら、A短大(教育系学科)は、これらの項目はいずれもよく経験されており、短大生調査全体の結果だけでなく、教育系学科全体と比較をすることによってより正確に学修経験を捉えることが出来る。

図2【A短大(教育系学科)、教育系学科全体、短大生調査全体の学修成果】を示したものである。教育系学科全体と短大生調査全体の学修成果を比較すると、A短大は教育系学科全体の満足度よりもさらに高く、特に「短大での学び」「短大やキャンパス」「他の学生」「他者に対する短大推奨度」においては、顕著に満足度が高い傾向が示されている。

図3【A短大(教育系学科)、教育系学科全体、短大生調査全体の満足度】を示したものである。短大生調査全体の結果と比べると、教育系学科全体の満足度は高い傾向にある。A短大は教育系学科全体の満足度よりもさらに高く、特に「短大での学び」「短大やキャンパス」「他の学生」「他者に対する短大推奨度」においては、顕著に満足度が高い傾向が示されている。

図4【A短大(教育系学科)、教育系学科全体、短大生調査全体の学修経験】を示したものである。教育系学科全体と短大生調査全体の結果を比較すると、A短大は教育系学科全体の学修経験を捉えることが出来る。

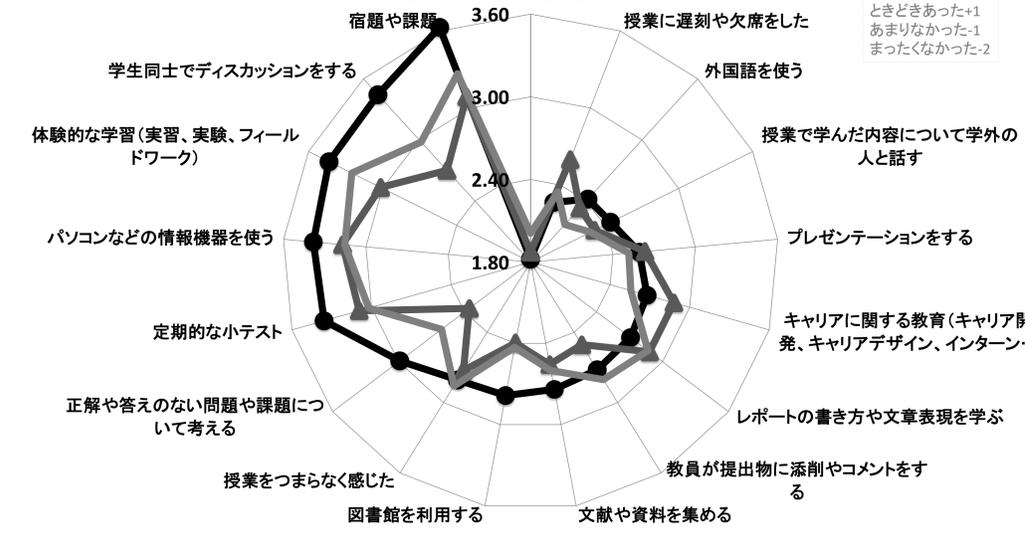
図5【A短大(教育系学科)、教育系学科全体、短大生調査全体の学修成果】を示したものである。教育系学科全体と短大生調査全体の学修成果を比較すると、A短大は教育系学科全体の学修成果を捉えることが出来る。

短大生調査は一般財団法人短期大学基準協会調査研究委員会が、「短期大学における主体的改善」改善に資する自己評価方法に関する調査研究」の課題のもと、「短期大学における学習効果測定法の開発」として実施するものである。科学的な研究の蓄積に基づく質問項目によって、精度の高い自己評価資料が得られることから、参加短期大学にとって、

自己点検・評価の資料となつて認証評価への対応に役立つだけでなく、自校の強みや弱みを把握してのマーケティングへの利用などを可能にするものである。

分業別集計は、「全国短期大学・高等専門学校一覽」をもとに、大学ポータルサイト等のインターネット上の情報を合わせ、短大生調査のために独自に開発したものである。これまでは調査参加短大全体のデータとの比較しかできなかったが、分業別集計によって各短大内の実情、分野ごとの特徴を反映した比較が可能になった。二〇一六年度以降の短大生調査では、正式に分業別集計が実装される予定である。

図1: 学修経験



○ A短大(教育系学科) (N=196)  
△ 教育系学科全体 (N=4,804、31学科)  
— 短大生調査全体 (N=18,532、132学科59短大)

図2: 学修成果

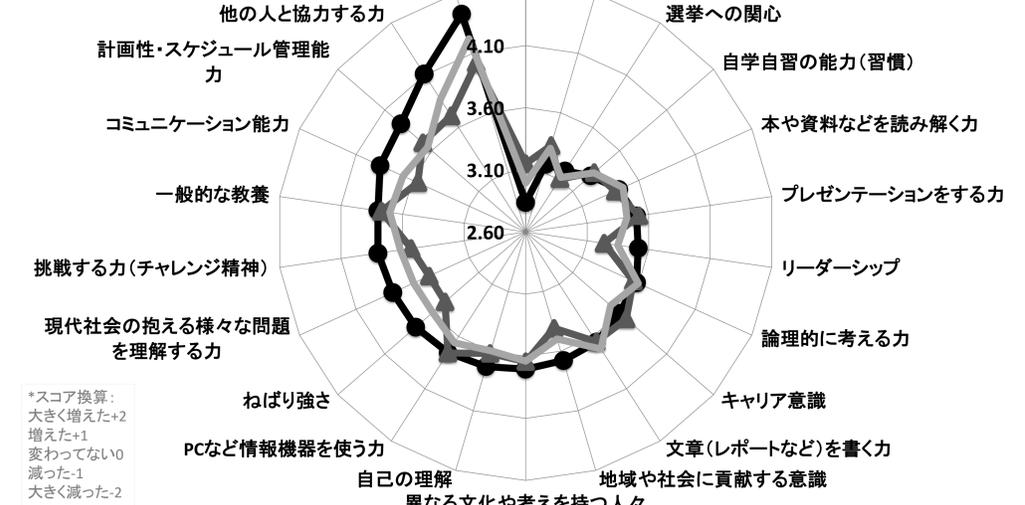


図3: 満足度

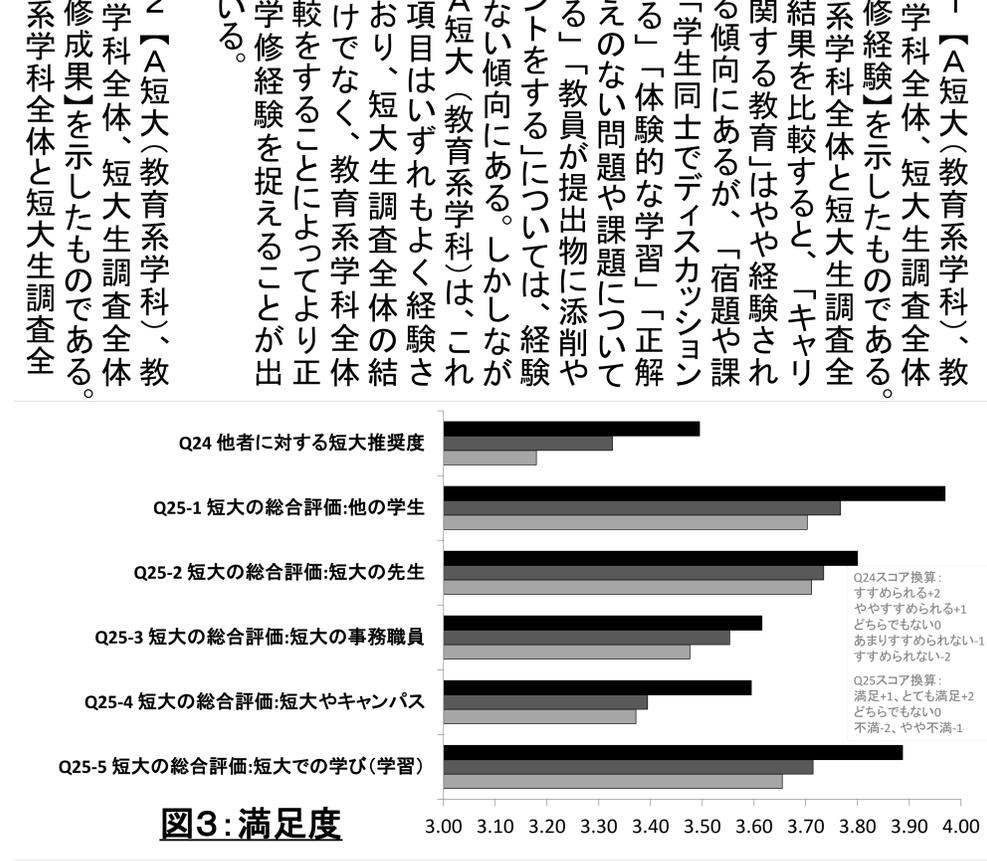


図3【A短大(教育系学科)、教育系学科全体、短大生調査全体の満足度】を示したものである。短大生調査全体の結果と比べると、教育系学科全体の満足度は高い傾向にある。A短大は教育系学科全体の満足度よりもさらに高く、特に「短大での学び」「短大やキャンパス」「他の学生」「他者に対する短大推奨度」においては、顕著に満足度が高い傾向が示されている。